

1. 職名・氏名 教授・塚本利幸

2. 学位 学位 修士、専門分野 文学、授与機関 京都大学、授与年月 H3

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習	
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 社会学概論（2単位） 1年生	
② 内容・ねらい 社会学全般を概観するために、社会学説史から代表的な人物を取り上げ、各人の中心概念を解説していく。社会学の基本的なパースペクティブ（ものの見方）や考え方の習得を図り、社会的な諸事象を多角的に捉えるためのバックグラウンドを養成する。	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 社会学（社会理論と社会システム）は、社会福祉士と精神保健福祉士の国家試験の受験科目でもあるので、授業内容を理解・習得することで国家試験への対応が可能になるように工夫している。例えば、頻出事項に関しては、プリントにアンダーラインを入れることによって、4年生になった時点で、復習プリントして活用できるようにしてある。	
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 社会問題論A（2単位） 4年生	
② 内容・ねらい デュルケームの犯罪の定義、トマスの「状況の定義」に関する議論、ベッカー等のラベリング・セオリー、キツセ&スペクターの社会構築論など、社会問題を理解するための分析枠組みについて整理し、その理解、習得を図る。	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 社会学の学説史の中に構築論的なパースペクティブの展開を位置づけるとともに、できるだけ具体的な分析事例を取り上げ、抽象的な理論に肉付けを与えることにより、受講者の理解を促進し、関心を持って授業に取り組んでもらえるようにしている。	
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 社会問題論B（2単位） 4年生	
② 内容・ねらい 社会構築主義の立場から、社会問題がどのように構築（定義）されていくのかについて分析し、社会問題を複眼的に捉えるためのパースペクティブ（視点）の獲得を目指す。	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 少年非行、児童虐待、交通事故等、さまざまな社会問題を取り上げ、社会問題について多角的に考える能力の獲得が図れるようにしている。また、積極的に時事問題を取り上げ、新聞記事などを利用することによって、受講者に興味関心を持って授業に取り組んでもらえるようにしている。	
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 基礎演習（2単位） 2年生	
② 内容・ねらい ジェンダー問題（男女共同参画問題）に関する資料を読んだり、ビデオを観たりして、討論をおこなう。資料の選定に関しても全員で検討して決定する。毎回、報告者を決め、レジュメを作成し、それにもとづいて発表を行い、その内容を受けて全員でディスカッションす	

る。プレゼンテーションの能力とディスカッションの能力とマナーを実践的に身に付けることを目指す。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ジェンダーに関わる時事問題に関する新聞記事や映画などの映像教材をできるだけ取り入れ学生の興味を引き出し、自発的に活発なディスカッションがおこなわれるよう工夫している。ゼミの司会（進行役）も学生に持ち回りで担当してもらい、学生の自発性を養うようにしている。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 ソーシャルワーク特別講義A（1単位） 4年生
② 内容・ねらい 社会学の基本的な概念や主要な理論、代表的な社会学者、社会調査の実施方法やデータの統計的な分析手法について解説し、公務員試験（市町村や都道府県）の「社会学」や「社会調査」に関する設問に対応できるよう、理解の習得を図る。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 公務員試験への対応力の養成を目標としているが、それだけに留まらず、同時に、社会的なパースペクティブや調査スキルが習得できるよう工夫している。毎回小テストを実施し、理解の徹底と知識の習得を図っている。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 社会福祉調査A（2単位） 2年生
② 内容・ねらい 量的調査、質的調査に関する基本的な知識や実施に当たっての注意点について解説している。卒業研究等で調査を行う学生が、調査の設計、実施、分析を実施できる能力を身につけること、ならびに、社会福祉士の国家試験科目「社会調査の基礎」に対応できる知識の習得を目標としている。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 調査実務の時系列的な流れを考慮し、調査を実施する上で必要になる「見通し」を意識してもらえよう講義を構成している。単に知識を羅列的に教えるのではなく、調査全体の中での意味や位置づけを明確にすることで、なぜ、そうした知識や技術、配慮が必要になるのかを理解してもらい、実践への対応力が身に付くよう工夫している。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 社会福祉調査B（2単位） 2年生
② 内容・ねらい 福井県立大学の在学生を対象に、小規模なアンケート調査を実施し、調査の実務の流れを経験する。自分たちで、調査を計画、設計、実施、分析することを通して、アンケート調査の困難さ、面白さを体験してもらい、調査に対する関心を養う。自分たちが立てた調査仮説を、統計的に分析、検証することで、実証科学の魅力を体感することを目標としている。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 実習形式の授業になっており、調査のテーマの決定、仮説の構成、仮説のクエスチョネアへの入れ込み、ワーディング、選択肢の選定、といった一連の作業をワークショップ形式で進め、データの分析結果をレポートにまとめる作業までを実際に体験する。学生が主体となって討論を重ね調査を実施することを通して、調査のノウハウの習得し、同時に調査への興味関心を深めていけるようにしている。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 卒業研究（4単位） 4年生
② 内容・ねらい これまで学んできた社会福祉学の4年間のまとめとして、学生が自ら選んだテーマに沿っ

て自主的に研究を進め、論文としてまとめる。	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫	前期の授業では履修者が各自のテーマ、研究方法、研究の進捗状況について毎回報告し、全員でのディスカッションを通して、研究の深化を図る。後期は、適宜、全員でのディスカッションも行いながら、個別指導を中心に授業を進め、執筆が順調に進むよう配慮している。
① 担当目名（単位数） 主たる配当年次等	福井を学ぶ（2単位） 1年生
② 内容・ねらい	オムニバス形式の講義の1コマを担当している。福井県の地域特性である人口移動の少なさが産業構造や雇用構造に基づくものであること、人口移動の少なさに基づく社会関係資本の豊富さが健康長寿に結びついていること、などを実証的なデータを通して示すことで、福井県の特徴について複合的な理解が得られることを目標としている。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫	客観的なデータを統計的に処理することによって、要素間の結びつきを実証的に確かめることができる。そうした分析の面白さを通して、福井県の特徴について複合的・立体的に理解してもらえよう多くの図表を提示し、統計的な知識を前提にしなくても、目で見えてわかるように講義を構成している。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等	保健・福祉研究方法論（2単位） 大学院1年生
② 内容・ねらい	「研究」の意義と成り立ち、人間（個人と社会）を対象とする研究の問題点、看護・社会福祉領域で行われる研究の思想と方法、社会調査・統計学・PCによるデータベース・データ集計・統計解析ソフトの利用など、初歩的技術を説明し、最後に「学術論文」とはどういうもので、どのように作成すべきかを考える。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫	オムニバス形式で行われる講義であり、塚本担当部分に関しては、仮説検証型の量的調査について、調査仮説の構成・仮説の構成要素の明確化（概念化・操作化）・質問文と回答選択肢の構成・仮説の検証の手法の各段階での留意事項について、理解が深まるよう工夫している。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等	社会調査特論（2単位） 大学院1年生
② 内容・ねらい	社会調査の基本的な手法について、量的調査を中心に解説している。調査仮説の構成、ワーディング、サンプリングの必要性和手法、データの入力方法、統計的な分析手法と留意点、記述統計と推測統計、等について指導している。修士論文の作成にあたって必要となるリサーチ・リテラシーの獲得を目指している。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫	講義の前半は座学中心で行い、塚本が実際に実施した社会調査を事例に、調査の設計・実施・分析・分析結果のまとめ方について説明している。後半では、実際にPCで統計解析ソフトを使って、データ分析に関して演習形式で授業を行っている。できるだけ実践的な授業形態にし、修士論文の作成に向けてリサーチ・リテラシーが獲得できるよう工夫している。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等	社会調査演習（2単位） 大学院2年生

②	内容・ねらい	修士論文の作成にあたって必要となる社会調査に関する知識や技法、留意点について、個々の学生の論文のテーマや目的に応じた指導・助言を行い、修士論文が研究計画に沿って滞りなく進捗していくことを目指す。
③	講義・演習・実験・実習運営上の工夫	大学院の学生はリカレントの社会人がほとんどなので、各人の能力や仕事との兼ね合い、修士論文の進捗状況にあわせて、指導の内容や演習の日時などに関して、できるだけ弾力的な対応ができるように工夫している。
①	担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 修士論文指導（8単位） 大学院2年生	
②	内容・ねらい	修士論文の作成にあたって社会調査を実施する学生に対して、社会調査に関する知識や技法、留意点について、論文のテーマや目的に応じた指導・助言を行うとともに、論文の書き方・まとめ方についても実践的な指導を行っている。
③	講義・演習・実験・実習運営上の工夫	大学院の学生はリカレントの社会人がほとんどなので、各人の能力や仕事との兼ね合い、修士論文の進捗状況にあわせて、指導の内容や演習の日時などに関して、できるだけ弾力的な対応ができるように工夫し、修士論文が研究計画に沿って滞りなく進捗していくように配慮している。
(2)その他の教育活動		
内容		
2003 年度から毎年、社会福祉士と精神保健福祉士の国家試験の対策講座を実施し、「社会理論と社会システム」ならびに「社会調査の基礎」の過去問について解説すると同時に、頻出事項について確認を行っている。		

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
① 著書	【 本】
② 学術論文（査読あり）	
* 1. 「アクティブシニアのボランティア活動参加の規定要因の総合的分析－福井県で実施したアンケート調査のデータ分析から7－」、共著者有（塚本利幸・舟木紳介・橋本直子・永井裕子）、福井県立大学論集（第 54 号）、2020 年 10 月 2. 「地域環境 NPO の活動展開と参加の構造の変化－NPO 法人「びわこ豊穡の郷」の 20 年を振り返って－」、共著者有（山添史郎、塚本利幸、霜浦森平、野田浩資）、環境社会学研究（第 26 号）、2020 年 12 月 3. 「地域環境 NPO 会員の行政との関係志向の変化 NPO 法人「びわこ豊穡の郷」を事例として」、共著者有（山添史郎、塚本利幸、霜浦森平、野田浩資）、水資源・環境研究（33 巻 1 号）、2020 年 12 月	
	【 3 本】
③ その他論文（査読なし）	【 本】
④ 学会発表等	
* 1. 「ボランティア活動参加と社会関係資本」、日本地域福祉学会、第 34 回大会（2020 年 6 月）、共同報告者無	
	【 1 件】
⑤ その他の公表実績	
・「シニアボランティアの社会貢献」、京都文化創生機構フォーラム「男女共同参画で福祉社会を拓く」口頭発表、2020年10月 ・「コラム：福井県の幸福度再考」、地域経済研究所 e メールマガジン vol. 189、2020年12月	
	【 2 件】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
【学外】 笹川日仏財団助成金（150 万円）、男女共同参画推進実行委員会（塚本は副委員長）として、フォーラム「フランスに学ぶパリテ法の成果と課題」（2020 年 11 月 24 日）の開催費の助成を得た 【学内】 戦略的課題研究推進支援（2,690,000 円）、福井モデル研究会（塚本はチームメンバー）として、研究課題「三世代近居の健康長寿と福井型のライフスタイルモデルに関する学術的研究」	
(3)特許等取得	
(4)学会活動等	
学会理事、事務局長（日本ジェンダー学会） 学会の司会（日本ジェンダー学会第 24 回大会、午前の部第 3 分科会、2020 年 9 月 27 日） 日本ジェンダー学会第 24 回大会実行委員（2020 年 9 月 27 日、オンライン開催）	

5. 地域・社会貢献活動

① 国・地方公共団体等の委員会・審議会 ・敦賀市環境審議会、委員、H18.4～現在に至る ・坂井市男女共同参画審議会、会長、H19.4～現在に至る ・福井県共同募金会配分委員会、委員、H21.4～現在に至る ・福井県男女共同参画審議会、委員、H22.4～現在に至る (副会長 H28.4～R1.4、会長 R2.4～現在に至る) ・福井市総合ボランティアセンター運営委員会、会長、H28.4～現在に至る ・福井県社協会長表彰専攻委員会、委員、H29.4～現在に至る ・勝山市男女共同参画審議会、委員、H30.4～現在に至る ・滋賀県男女共同参画審議会、委員、H30.4～現在に至る (副会長 R2.4～現在に至る) ・福井市女性活躍推進協議会、会長、H30.4～現在に至る ・南越前町男女共同参画審議会、会長、R1.4～現在に至る ② 国・地方公共団体等の調査受託等 ・福井県「人口減少対策データ分析・調査事業」、社会調査の設計・分析担当、R2.4～R2.12 ③ (公益性の強い) NPO・NGO への参加 ④ (兼業規程で業務と見なされる範囲内での) 企業等での活動 ⑤ 大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等 ⑥ 公開講座、オープンカレッジ、社会人・高校生向けの講座の開催 ・2020 年度後期公開講座 FPU OPEN COLLEGE「アンケート調査の設計と分析の基本～ちゃんと分析できなきゃ、しなきゃもったいない～」(全 4 回)、オンデマンド動画配信、R2.10 ⑦ その他
--

6. 大学運営への参画

(1)補職
(2)委員会・チーム活動
・「研究等における人権擁護・倫理委員会ワーキンググループ」メンバー R1.4～現在に至る ・「教学 IR 部会」メンバー R1.4～現在に至る
(3)学内行事への参加
・県内高校訪問説明会 (啓新高校) 2020 年 8 月 20 日
(4)その他、自発的活動など